

『アバウト・タイム』

2013 年／イギリス／リチャード・カーティス監督作品

心がほっこりしたいときに

会員 藤田 詩絵里 (67 期)

イギリス南西端の美しい田舎町コーンウォールに住むティムは、両親と妹、そして伯父の5人家族。どんな天気でも海辺でピクニックを楽しむ、風変わりだけど仲良し家族。ティムは、21歳の誕生日を迎えた日、父から、一家に生まれた男たちに引き継がれる秘密を告げられる。その秘密とは、暗い場所に閉じこもって拳を握り、行きたい過去の場면을思い浮かべると、その場面にタイムトラベルできるということ。父から、この能力を何に使う？と聞かれたティムは、「彼女を作りたい」と答える。女性付き合いが苦手なティムだが、早速、時間を何度も巻き戻し、妹の友人シャーロットにアプローチを変えながら告白するがあえなく撃沈。そして、数年後、弁護士として働き始めたロンドンの、真っ暗なレストラン（ブラインドレストラン）で、ようやく運命の女性メアリーと出会う。

これが、この映画のはじまりである。ここまでを聞くと、よくある設定の、チープなラブロマンス映画かと思う。

しかし、映画半ばには、早くも、ティムは、メアリーとめでたく結婚してしまう。この映画の本題は、ここからなのである。

結婚したティムは、最愛の妻と2人の子どもに囲まれ幸せな日々を送るうち、しばらくタイムトラベル能力を使っていないことに気付く。本当に幸せな日々においては、過去に戻って人生をやり直す必要などないのかもしれない——と。

映画の終盤で、ティムは、癌のために父を失う。

タイムトラベルには、子どもが生まれた後に時間を遡ってはいけない、というルールがある。少しの時間のずれで受精のタイミングが変わってしまうため、タイムトラベルから戻ってきたとき、そこには愛すべき子どもはいない、ということになるからだ。メアリーは3人目の子どもを望むが、子どもが生まれると生前の父には会いに行けなくなる。しかし、ティムは、父とは別れ、新たな家族を増やすことこそ、父の望むことだと考え、家族を増やすことを決意する。映画ラストの、父との永遠の別れのシーンでは、涙がとまらなくなる。

この映画の主題は、家族愛なのである。

最期を迎えた父は、ティムに、人生を幸せに送る秘訣を教える。その秘訣とは、タイムトラベル能力で、1日を2回送ること。そうすると、1回目には不安や緊張で気付かなかったことにも気付き、人生を楽しめるのだ。しかし、ティムは、父の教え以上に人生を幸せに生きる秘訣を発見する。それは、タイムトラベル能力で1日の2回目を送っているつもりで、毎日を全力で生きるということ。

この映画は、家族、友人、愛といった、人生において大切なものを改めて教えてくれる。

駆け出しの弁護士ティムが、人生を幸せに送るコツを自分で見つけたように、毎日を全力で生き、人生を楽しみたい。

『アバウト・タイム』は、現在、レンタルビデオでご覧いただけます。



「アバウト・タイム～愛おしい時間について～」
発売元・販売元：NBCユニバーサル・エンターテイメント
発売日：2015年4月24日
価格：Blu-ray 3,800円＋税
DVD 3,400円＋税